

ひいおばあちゃんからのたからもの

浦添市立港川小学校二年 與座 諒真

ぼくのひいおばあちゃんは、九十六さいです。かみのけは白くて、おかおは、にこにこで、おきなわのほうげんでおはなしします。おうちにあそびにいったら、いつもあく手します。手はやわらかくて、あったかいです。

ひいおばあちゃんは、むかし、おきなわせんをたいけんしています。今は、せんそうのはなしはしません。でも、おとうさんは、むかし、ひいおばあちゃんから、せんそうのはなしをききました。だから、ぼくは、おとうさんから、はなしをききました。

「おばあはね、ばくだんが足にあたってしまったんだよ。」

おとうさんは、ひいおばあちゃんのばくだんのあたったあとを見たとそうです。足のかわがぎゅっとして、いたそうだったっておしえてくれました。

「こうげきからにげるとちゅう、草むらで、アメリカへいに見つかってね。でも、アメリカへいは、おばあをにがしてくれただった。だから、いきでにげられたんだよ。」

ぼくは、このはなしをきくのはドキドキしてこわかったけど、ひ

いおばあちゃんがいきでいてよかったとおもいました。おかあさんが「ひいおばあちゃんがいきでいるから、よぎのばあちゃんが生まれて、パパが生まれて、りょうまが生まれたんだよ。」

っておしえてくれました。ひいおばあちゃんがこわいおもいをしていきでくれたから、ぼくたちのいのちがつながりました。だから、ぼくはつながったいのちを、たからものにします。ぬちどうたからにします。

今年はせんご八十年です。みんなが大せつにしてきたへいわも、ずっとずっとつづいてほしいです。せかいからせんぶのせんそうがなくなりますように。